



【今週の暗唱聖句】

神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一です。それは人としてのキリスト・イエスです。

第一テモテ2:5

●もしこの世に大勢神様がいて、釣り堀で大勢が釣りをしているように神々がめいめいの釣りざおで人間を救済しようとしていたなら、確かにどんな宗教でも救われるということになるでしょう。しかし聖書はこの点極めてはっきりしています。イザヤ45:5-6 に次のようにあります。

「わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。

...それは日の上の方からも、西からも、わたしのほかに、誰もいないことを人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。」

「神は唯一である」との主張は旧約聖書から新約聖書に至るまで一貫しており、キリスト教は紛れもなく

「唯一神教」なのです。

●ということで、釣り堀にはお客が一人しかいなかった、というイメー

ジに切り替えていただきたいのですが、ではこ

のお客はいったい何本の釣り竿を使っているのでしょうか。もし彼が一人で何本も使っていて、それぞれの釣り竿に「ナニナニ教」「なにになに教」「何々教」と書いてあったとするなら、結局どんな宗教を経由しても同じ神に至るのだ、という結論に達するでしょう。しかし、聖書はこの点についても非常に明確です。

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、誰ひとり父のみもとに来ることはありません。」(ヨハネ14:6) とイエスは主張し、パウロも「仲介者も唯一です」と宣言しています。つまり、釣り堀のお客は釣り竿を一本しか使っていないのです。

●何はともあれ、イエス・キリストに食いついて、釣られて見ることで。本当に救われます。そして救われて見ると釣り竿の威力が分かり、神の世界がどれほど大きいものであるか驚くことになるでしょう！

【今週の英語】

If He is not your Lord,
He is not your Savior.

Adrian Rogers

もしキリストがあなただの「主」でないなら、キリストはあなたの「救い主」でもない。

If the greatest commandment
is to love God with all your
heart, the greatest sin is
not to do it.

Adrian Rogers

一番大切な命令がもし、心を尽くして神を愛することであるなら、最も罪深い罪はそうしないことである。



【先週のMESSAGEより】

いばらの冠 マタイ27:1-2, 11-32

●ローマ人総督ピラトの苦悩

紛争の絶えないユダヤの総督に任命されていたピラトは決して無能な男ではなかった。ローマ法に則り正義に基づき政治を行う務めを負っていたピラトはイエスとの短い会見を通して即座にイエスが無実であることを悟り、祭司長、民の長老たちがねたみゆえにイエスを死刑にしたがっていることも理解した。ピラトはイエスが狂っておらず、嘘つきでもないことを認めたが、イエスの真实性を認めるなら、イエスを無罪放免にする必要があり、ユダヤの指導者たちを敵に回すことになることを彼は悟っていたので、「真理とはなにか」と言って結論を出さなかった。

●人生の大切な原則

何事でも「自分で決断する責任を放棄すると、他の人があなたのために決断することになる」という原則がある。イエスは誰か、ということについて決断を下さずに、イエスを釈放しようとしたピラトの姑息な手段はことごとく裏目に出、ついに「イエスを私にどうしろと言うのか」と民に判断を仰ぐはめになる。民は「十字架につける」と彼に答え、権力者であるはずのピラトは皮肉にもユダヤ人たちに屈服し、ここに無実の人間の死刑が確定してしまう。

●隠されたい計画

しかしここに神の隠された計画があった。時は「過ぎ越し祭」。古代イスラエル人たちがエジプト解放前

夜、傷のない小羊を殺し、その血を家の鴨居と門柱に塗ることで、神の裁きを免れたことを祝う祭りであったが、これこそまさに、キリストの十字架を指し示す「型」であった。なぜ小羊の血が必要であったのか。すべての人は神の前に罪人なので皆、同じように神からの裁きを受けなければならぬ。しかし神はユダヤ人たちに特別な赦しを受けるために「身代わり」を立てていることを命令したのだ。小羊の血は「既に死刑が執行された」ことを示す証拠となり、神の裁きはユダヤ人家庭を過ぎ越して行ったのである。

●救いの道

無実であった神の御子イエスが十字架にかかって、本来私たちが受けるはずの刑罰を代わって受けて下さった、というのが福音であり、聖書の核心である。このイエスの身代わりが自分のためだったと受け入れるなら、私たちの心の扉の門柱と鴨居にキリストの血が塗られたのと同じことになるのである。神はその一人子の血をごらんになって私たちに裁きを下さず、救いを与え、神の子供としての立場を与えて下さるのである。神から差し出されているこの救いを今日という日、一歩進んで受け入れてはいかがだろうか。心の中で感謝し、従う決心をし、信仰を公にすれば良いのです。■

